

平成 20 年度温室効果ガス排出量算定方法検討会（第 2 回） 議事概要

日 時 平成 21 年 3 月 2 日（月） 10：00～12：00
場 所 中央合同庁舎 5 号館 環境省第 1 会議室（22 階）
出席委員：大聖座長、天野委員、板橋委員、浦野委員、酒井委員、外岡委員（柏木委員代理）、森口委員
環境省：森谷大臣官房審議官、木村総務課長、徳田地球温暖化対策課長、加藤地球温暖化対策課課長補佐、服部地球温暖化対策課係長、豊村研究調査室係長

1. 開会

- 徳田課長
 - ・ 平成 20 年度第 2 回温室効果ガス排出量算定方法検討会を始める。なお、本日の審議は公開としている。
- 加藤課長補佐：配布資料の確認。

2. 議事

（1）2009 年に提出するインベントリ（2007 年度分）の算定方法等について

- 加藤課長補佐：資料 1 に基づき、2009 年に提出するインベントリの算定方法の概要について説明。
- 大聖座長
 - ・ 各分科会における算定方法の改善についての検討結果を各分科会の座長からご報告いただきたい。質疑応答については全ての分科会の報告が終わった後に行わせていただきたい。
- 森口委員：資料 3-1 に基づき、インベントリ WG における算定方法の改善についての検討結果を報告。
- 外岡委員：資料 3-2 に基づき、エネルギー・工業プロセス分科会における算定方法の改善についての検討結果を報告。
- 大聖座長：資料 3-3 に基づき、運輸分科会における算定方法の改善についての検討結果を報告。
- 板橋委員：資料 3-4 に基づき、農業分科会における算定方法の改善についての検討結果を報告。
- 浦野委員：資料 3-5 に基づき、HFC 等 3 ガス分科会における算定方法の改善についての検討結果を報告。
- 酒井委員：資料 3-6 に基づき、廃棄物分科会における算定方法の改善についての検討結果を報告。
- 天野委員：資料 3-7 に基づき、森林等の吸収源分科会における算定方法の改善についての検討結果を報告。
- 大聖座長

- ・ 以上についてご質問やコメントがあればいただきたい。
- 森口委員
 - ・ 手続きに関してもう一度確認させていただきたい。今回の改訂で排出量について基準年に該当する年の値が変わっているものがある。吸収源分野も値が大きく変わっているが、これは扱いが別だろうと理解している。基準年の割当量報告書については既に確定しているという点も含め、今回の改訂がどのようにインベントリに反映されるのかについて、確認させていただきたい。
- 加藤課長補佐
 - ・ 森口委員のご指摘のとおり、基準年の値については割当量報告書において確定している。ただし、毎年報告するインベントリについては、1990年から直近年までの最新値を報告するということになっており、京都議定書における基準年排出量は変わらないが、1990年の値は今回の算定方法の変更に伴い変更されることになる。吸収源分野については、気候変動枠組条約に基づく吸収源の報告値は大きく変更されるが、その一部を取り出した京都議定書の3条3項、3条4項に基づく報告部分についての修正は僅かになる予定である。
- 森口委員
 - ・ ご説明の前半部分をもう一度確認させていただきたい。基準年の割当量は既に報告しており、さらに経年変化を報告することになっていると理解しているが、最終的に割当量に対する削減量を算定する際に用いる算定方法には、今回の変更はどのように反映されるか考えれば良いか。基準年と異なる算定方法を適用することは許されていないという理解で良いか。
- 加藤課長補佐
 - ・ 基本的には最新の算定方法による値を報告することになっている。割当量に関しては、割当量を決定した時点での最新の算定方法で算定を行っており、値は固定されている。それ以降の新しい知見に基づき直近年の報告値が変わる事に関しては、審査官の審査を経て認められれば新しい算定方法による値が報告値として確定する。
- 森口委員
 - ・ 基準年の割当量を後から修正することはできないが、1990年から直近年の値については、新しい算定方法が妥当なものであれば算定方法の変更が可能であり、その結果として排出量が算定方法変更前より大きく削減されていても、それは認められ得るという理解で良いか。
- 加藤課長補佐
 - ・ 審査官の審査を経て、算定方法が妥当であると判断されれば認められる。
- 酒井委員
 - ・ 資料1の4頁、5頁の表で、エネルギー部門の内数として廃棄物部門の他に運輸部門が括弧書きで示されているが、運輸部門を切り分けて括弧書きで示しているのはなぜか。全排出量のうち量的に大きな割合を占めるエネルギー部門の中に、運輸部門や廃棄物の原燃料利用部門のような細目を示していくのであれば、他の内訳についても示した方が良いという見方も出てくるのではないかと思う。この点に関して今後検討の余地はあるかどうかお聞きしたい。
 - ・ 資料1の7頁に、京都議定書目標達成計画における温暖化対策のうちでインベントリに反

映されていないものが挙げられており、廃棄物分科会ではバイオマスプラスチックの利用や下水汚泥焼却等について検討を行ってきた。しかし他にも再生可能エネルギーの導入など重要な温暖化対策があり、こういった温暖化対策について、インベントリで今後どのように検討していくことになるのか確認したい。

○ 加藤課長補佐

- ・ エネルギー部門で内訳として運輸部門を示していることに関しては、運輸部門が他の部門とうまく切り分けができたため示したというのが理由である。他の部門についてもうまく表記できるかについて今後検討させていただきたい。京都議定書目標達成計画における温暖化対策とインベントリとの関係に関しては、現在課題として挙げられていない温暖化対策についても、関係省庁と相談しながら適切に検討を行っていきたい。

○ 森口委員

- ・ 先ほどインベントリ WG の説明の中で十分に説明し切れなかった点について、補足させていただきたい。インベントリ WG の説明で、計上方法の変更により廃棄物部門の排出量の約 40% がエネルギー部門で計上されることになることと申し上げたが、それは資料 1 の 4 頁の表 1 に示されているように、改訂後の廃棄物分野の排出量約 4,200 万トン CO₂ に対する、廃棄物の原燃料利用分の割合についてである。廃棄物分野の中には廃棄物の焼却以外の部門もあり、廃棄物の焼却のみに限れば、5 割強が廃棄物の原燃料利用としてエネルギー分野で計上されることになる。
- ・ 資料 3-1 の 2～3 頁に、廃棄物の原燃料利用分を新たに計上することになったエネルギー分野の値が示されているが、計上方法の変更の影響を受けるのは「1.A.1. エネルギー転換」、「1.A.2. 産業部門」のみであり、「1.A.3. 運輸部門」、「1.A.4. 家庭・業務その他部門」、「1.A.5. その他部門」は影響を受けない。
- ・ 温暖化対策の実施の観点から見ると、廃棄物のエネルギー利用によって、廃棄物の利用先での化石燃料由来の排出量が減ったかどうかを把握することが必要である。温暖化対策のインセンティブを削がないために、国内向けの計上方法では廃棄物の原燃料利用分はエネルギー部門の排出量には含めないという考え方がとられているが、それに見合った分だけ化石燃料からの排出が減っているのかも確認していかなくてはならない。インセンティブを削がないようにしつつ、廃棄物が効率的に使われたかどうかを把握していくことも重要だろう。

○ 外岡委員

- ・ 資料 3-1 の 1 頁に示されているように、エネルギー利用された廃棄物やエネルギー回収を伴う廃棄物焼却からの排出に関しては、国外向けと国内向けで異なる計上方法をとる事になったが、これは一般の方にはわかりにくく、UNFCCC 向けの報告と国内向けの報告で値が違うことに混乱するのではないかと。特に廃棄物の場合はバイオマスの扱い方なども注意が必要であるが、自治体ではインベントリの細かいルールを十分に理解しないまま業務に携わる方も多いので、国外向けの報告と国内向けの報告との対応表のようなものを作り、整合性がわかるような資料を国内向け報告に別途付けて出す方が良いのではないかと。
- ・ 資料 3-2 の 2 頁に、主な検討課題として総合エネルギー統計の計上方法の改善が挙げられている。我々は細かい部分についても精度を高めるべく分科会等で努力しているが、やはりエネルギー分野における統計が正確でないと全体の排出量の精度は高くない。以前と

比べて需要側の統計が簡略化されている場合などがあるため、もう一度精度を上げていくことが長期的な課題として必要だろう。例えば最近始まったエネルギー消費統計を活用しインベントリの精度を上げていくことも今後の課題として追加して良いのではないか。

- 大聖座長
 - ・ 廃棄物のエネルギー利用に関しては、表を二つ並べると益々混乱する可能性があると思うので、国内向けに但し書きのようなものをつけるのが良いかもしれない。
- 森口委員
 - ・ 廃棄物はこれまで産業分野で燃焼利用しても排出量に計上しなかったため、廃棄物を利用しても排出量を計上しなくて良いという誤解が産業側にあるように感じられる場面もあった。温暖化対策のインセンティブを削がないために廃棄物分野で計上してきたが、廃棄物をどれだけ使用しても排出が無いということではなく、温暖化対策としては廃棄物が効率的に利用され化石燃料代替が行われることが必要であるということも含め、廃棄物側とそれを利用する側の双方にバランスよくご説明いただきたい。
- 浦野委員
 - ・ HFC 等 3 ガス分野について補足させていただく。工業プロセスの中では HFC 等 3 ガスは大きな部分を占めているが、今回、冷蔵庫及び空調機器からの使用時の排出量推計値が増加する見込みである。冷蔵庫及び空調機器の使用時の排出量を削減する対策を進め、それをどのようにインベントリに反映していくかを、第 1 約束期間以後の対応も含めて議論していきたい。
 - ・ HFC 等 3 ガスは第 1 約束期間の基準年が 1995 年であるが、条約事務局からは 1990 年から 1994 年の排出量の推計も行うように言われている。これまでは情報が不足しており精度が不十分であるため対応できていなかったが、今後は訪問審査の可能性もあるため、何らかの検討をしたいと考えている。

(2) 温室効果ガスインベントリ確定値・速報値の発表早期化について

- 加藤課長補佐：資料 4 に基づき温室効果ガスインベントリ確定値・速報値の発表早期化について説明。また、欠席しているエネルギー・工業プロセス分科会座長柏木委員から提出された意見書（早期化の議論においては統計の正確性に対しても慎重な配慮が必要であるという主旨の内容）についても説明。
- 外岡委員
 - ・ かつて森口委員と日本の CO₂ 排出量の報告書を作ったことがあるが、その際には暦年値と年度値を平行して作っていた。月報を使えば暦年のデータを作ることもできる。国内対策の行政上の観点で見ると、月報を使う速報性のある方法についても、可能性を追求していくべきである。先に推計を入れながら暦年でインベントリを作成しておけば、作成が遅れても京都メカニズムの参加資格停止になるような危うい状況にならずに済むという安全弁にもなる。長期的には月報を活用したインベントリ作成の方法も考えられるのではないか。

(3) QA/QC 計画について

- 加藤課長補佐：資料 5 に基づき QA/QC 計画について説明。
- 大聖座長
 - ・ ご意見やご質問があればお願いしたい。
- 外岡委員
 - ・ 資料 5 の 4 頁に『インベントリ品質保証 WG』を設置した」とあるが、2008 年度から WG が設置されているということか。
- 加藤課長補佐
 - ・ QA/QC 計画にこのように書いて報告するという意味である。インベントリ品質保証 WG の設置は今後であるが、設置の手続きを整え、来年度提出するインベントリ報告書にはこのような改善を図ったと報告したい。
- 大聖座長
 - ・ 専門家審査チームから指摘を受けたことに対応して QA 活動を独立させるということであった。指摘を受けた事項に対しては、今回の対応で十分であると考えて良いか。特にペナルティーのようなものは無いのか。
- 加藤課長補佐
 - ・ EU 等諸外国の QA/QC の状況を見ながら、この程度であれば審査官から特別指摘は受けないだろうという範囲で検討して今回提案させていただいた。ペナルティーに関しては、審査官の指摘事項に対して改善を行っていないと、インベントリを作成する国のシステムが機能していないと判断され、京都メカニズムの資格停止になる可能性もある。
- 森口委員
 - ・ 事務局のご説明で、「国立環境研究所に」インベントリ品質保証 WG を設置するという言い方がされていたが、そのような言い方をしてしまうと独立した機関とは言い難い。文書にはそのように書かれていないので問題ないが、説明のなかで国立環境研究所に設置すると受け取られるような言い方があった。インベントリ品質保証 WG から国立環境研究所が事務的に何らかの依頼をされることはあると思うが、インベントリ品質保証 WG と国立環境研究所は無関係と説明した方が、独立性が高いのではないか。この点についてご留意いただきたい。

(4) 今後の温室効果ガス排出量算定方法検討会の進め方について

- 加藤課長補佐：資料 6 に基づき、今後の温室効果ガス排出量算定方法検討会の進め方について説明。

3. 閉会

- 森谷審議官
 - ・ 本日は温室効果ガス排出量算定方法の改善について取りまとめいただいた。本日もご議論いただいたとおり、温暖化対策のインセンティブが削がれないよう、削減努力の結果ができるだけ排出係数やインベントリに反映されるための技術的検討が行われ、それが国際的

にも貢献することが重要だと考える。また、代替フロンについては、推計の精緻化に伴って排出量が増加する懸念があり、気を引き締めていく必要があると思っている。京都議定書目標達成計画の見直しや中期目標の検討にも、ご検討いただいた結果を重要な基礎と位置づけて役立てていきたい。経済危機を迎えた 2008 年度については、排出量がどうなるか関心が集まると思われる。専門的な立場から引き続きご協力いただきたい。

(以 上)